

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(331)(HP 収載)

—ケルン・コンサート—

1. 始めに

前報(330)に引き続き、STAGE+のキース・ジャレットのケルン・コンサートの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(330)に引き続きキース・ジャレットのケルン・コンサートの演奏を選びました。

ザ・ケルン・コンサート

キース・ジャレット

ケルン、1975年1月24日（パートI）

ケルン、1975年1月24日（パートIIA）

ケルン、1975年1月24日（パートIIB）

ケルン、1975年1月24日（パートIIC）

KEITH JARRETT
THE KÖLN CONCERT



ECM

3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

STAGE+のアーカイブにキース・ジャレットのケルン・コンサートのアルバムがあることが分かりましたので試聴しました。

ジャレットが演奏したのは、ベーゼンドルファーのベビーグランドピアノだそうですが、迫力満点の演奏です。

<https://note.com/nabejazz/n/ncdcdbd60cc9fe>

ドイツグラモフォンが ECM レーベルのケルン・コンサートのアーカイブを保有している経過は分かりませんが、ドイツグラモフォンの配信だけあって打鍵の強さをコントロールし、その一音一音のニュアンスが手に取るようにわかります。

1975 年の収録ですが、演奏技量に加えて、評判になった録音の良さが分かります。試みに iPhone でも WiFi で受信した同上曲を再生するようにし、iPhone に装着した Apple USB 3 カメラアダプターから USB 経由で PC と同様、Brooklyn DAC+に送り出してみたところ、ロスレス、高音質、通常音質のいずれの設定でも再生可能でした。音質はロスレス設定でも LAN iPurifier Pro 経由の PC 再生には及びませんでした。



また、ケルン・コンサートは Spotify でも試聴できますが、ロスレスで再生すると STAGE+に近似した音質になっています。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、定番のジャレットの演奏する、ベーゼンドルファーのベビーグランドのケルン・コンサートの醍醐味を味わうことができました。ちなみに Koln Concert (50th Anniversary Edition) の 2 枚組アナログ盤発売も予定されています。

以上